

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 12
2015.2

ニュース

ライトフェスティバル

きらめくキャンパス

寒さ忘れる一夜に



お知らせ 創立50周年記念 生まれ変わるキャンパス
城西の丘に
水田三喜男記念館(仮称)、新薬学棟

創立50周年 大きな節目 将来に向け布石を

——水田理事長

今年の仕事始めは1月7日に行われました。水田宗子理事長は年頭のあいさつで大学の創立50周年に触れ、「世界の大学、日本の大学に比べてこれから長い道のりがある、緒に就いたばかりの大学ではあるが、私たちにとっては大きな節目であり、将来に向けて大きな布石を打つ意味のあるものにしていきたい」と語りました。その上で「力と心を合わせて法人の掲げてきた理念、方向を信じてこれまでできたが、これからはそれをどうやって次の人たちにつないでいくか、その基盤を一つひとつ大切にしていかなければならない」と述べました。また、箱根駅伝での男子駅伝部の活躍に関し、「やはりシード権を獲得することがいかに大変かということをつくづく感じた。仕事は一夜にしてなるものではなく、一つひとつの積み重ねが大事だと強く感じた」と語りました。



水田宗子理事長

目次

- 02 [年頭あいさつ]
創立50周年 大きな節目
将来に向け布石を
[ニュース]
箱根駅伝 3年ぶりシード権奪還!
ライトフェスティバル
- 04 [お知らせ]
創立50周年記念
生まれ変わるキャンパス
[ニュース]
- 05 [ニュース]
- 06 [ニュース] 柄谷行人氏 講演会
[お知らせ]
薬学部企画・開発 化粧品お目見え
[シリーズ] 浮世絵
- 07 [シリーズ] 先輩訪問
前橋市議会議長 町田徳之助さん
- 08 [シリーズ] 学生互版ワイド
学内外で活躍する城西人たち
- 10 [図書館だより]
[悼む]
- 11 [エリア紹介]
坂戸市 市全体で食育推進運動
毛呂山町 春の流鏑馬 和やかに
東武線沿線情報
外秩父七峰縦走ハイキング大会

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙

5回目を迎えたライトフェスティバル。毎年、華やかさを増してすっかり本学の年末の風物詩として定着した感があります。今回も水田記念図書館前にはライトアップされたジョー君とクリスマスツリーが飾られ、ステージではさまざまなパフォーマンスが披露されました。また、メインストリートの模擬店は多くの市民の方々や学生、教職員でにぎわいました。



ニュース ライトフェスティバル

きらめくキャンパス 寒さ忘れる一夜に



水田理事長(左)、森本学長(右)、学生たちがツリーに点灯

第91回箱根駅伝

3年ぶりシード権奪還!

城西大歴代最高記録で

第91回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)は1月2、3日に行われました。12年連続12回目の出場となった男子駅伝部は、2区・村山紘太主将(経営4)の8人抜きの快走や最終10区・寺田博英(経営4)の区間賞の力走などで7位に入り、3年ぶりにシード権を奪還しました。往路は8位、復路は7位で総合成績の11時間8分15秒は、88回大会の記録を2分2秒縮める城西大学歴代最高記録でした。



報告会で喜びを爆発させる部員たち

レース後の報告会は笑顔に包まれました。水田宗子理事長はあいさつで「毎年、多くの皆さまが応援してくださっている。そのことの連続の上に良い成績が出せる年があるのだと思っています。今年は城西大学の創立50周年です。チームの活躍は私どもにとって大きな励みになりました。皆が心を一つにして50周年を迎える良いきっかけをつくってくれたと思います」と男子駅伝部の健闘をたたえました。

榊部静二監督は「(この結果は)村山と4年生がしっかりと頑張ってくれたおかげと思っています。最後の最後に寺田が区間賞を取ったことは、私自身うれしく褒めたいと思います。4年生が頑張ったことを3年生、2年生、1年生が引き継いでくれて、13回目も14回目も頑張れるよう努力していきたい」と述べました。

オール城西で 力一つに ——森本学長

また、森本雍憲学長は「男子駅伝部のシード権獲得は、今年スタートにとり、いろんな意味で励みになる。50周年は、その歩みや中身を基盤として、70年、さらには100年に向けて充実して、世の中に貢献していく姿を広く内外に示す絶好の機会と思っている。大きな行事が計画されている。オール城西で力一つにして取り組んでいきたい」と述べました。

城西国際大学の柳澤伯夫学長も「箱根駅伝でチームが7位という素晴らしい成果を上げたことは喜ばしい限り」と男子駅伝部の健闘をたたえ、「入試、50周年に向けて我々城西国際大も努力を傾けなければならないと考えている。重ねて駅伝の活躍に対して心からお祝いを申し上げ、我々もそれを旗印にして頑張っていきたい」と結びました。

師走のキャンパスを彩る「ライトフェスティバル」が昨年12月12日に開かれました。今回で5回目。司会進行は女性リーダー育成奨励生の経済学部4年の大林真子さんと長谷川未希さんで、「本学の元気の良さを、このライトフェスティバルでも皆さまにお見せしたい」とあいさつしました。草野素雄副学長の開会あいさつに続き、水田宗子理事長、森本雍憲学長、学生・留学生代表によるツリー点灯が行われました。

寒さを吹きとばすように最初の余興は、榎本勝美事務局長の長女、祥子さんら3人によるバレエ。3人はチャイコフスキー作曲「くるみ割り人形」の「花のワルツ」の曲に乗って華麗な舞いを見せ、観衆から盛んな拍手を浴びました。杉林堅次、白幡晶副学長は、水田理事長の詩に短大学歌を作曲した音楽家の吉岡しげ美さん

が曲をつけた「書かれなかったラブレター」をギターの弾き語りでも披露しました。この後、ハンガリーなどの留学生8人による歌とダンスや薬学部の「あんず組」「ローズマリー」のメンバーらによるダンスパフォーマンス、マレーシア留学生による民族舞踊、中国・大連外国語大学の留学生による歌など多彩な余興が繰り広げられました。最後は恒例となった松島憂弥さん(経営学部3年)の迫力あるファイアーダンスで締めくくりました。

ライトアップされたメインストリートの模擬店では、短大有志によるシフォンケーキや紅茶・コーヒー、貴雲塾によるから揚げ・ポテト、野球部員による豚汁、女子ソフトボール部によるフランクフルト、ハンガリーやポーランドからの留学生によるスープなどが用意され、参加者は冬の一夜をそれぞれに楽しみました。



華麗な舞いに拍手が起こる



マレーシアの民族舞踊を披露する留学生



笑顔でフランクフルトを売る女子ソフトボール部

お知らせ

創立50周年記念 生まれ変わるキャンパス

城西の丘に 水田三喜男記念館(仮称)、新薬学棟

創立50周年を記念して、キャンパスの整備が行われます。中心となるのが、城西の丘に建設される「水田三喜男記念館」(仮称)と6号棟の跡地などに建設される新薬学棟です。

両建物とも世界的に有名なカリフォルニア大学ロサンゼルス校の阿部仁史先生の設計です。水田三喜男記念館は2階建てで総床面積約2000平方メートル。城西の丘の北側の地形に沿ってつながる三つのテラス空間やラウンジスペースを通して、森の延長のような空間デザインになっています。水田三喜男先生ゆかりの品物や大学の歴史を振り返る資料などを展示するファウンダーズルームのほか、各国からの要人を含むVIPを迎えるゲストエリア、レセプションやワークショップなど多様な活動を行うための多目的ラウンジを備え、国際教育や地域連携の拠点となるものです。ファウンダーズルームの展示をめぐるには学内のワーキンググループが発足し、展示品の検討を進めています。

また、新薬学棟は地下1階、地上9階建てで総床面積は約1万2000平方メートル。アイトップセンターと現在の6号棟にあるほとんどの



水田三喜男記念館の外観イメージ

機能を担います。最先端の実験室や研究室を備えます。薬草園ではセミナーなども行える小校舎を備える予定で、地域に密着した教育を担います。また、新薬学棟が完成した後の6号館跡には、理学部・薬学部が入るサイエンスビルが建ち、機器センターや講義室、研究室のほか、学生が集うカフェテリアやラウンジが整備されます。



水田三喜男記念館の内観イメージ



新薬学棟の外観イメージ

ニュース

就職セミナー

2015.1.23

企業担当者と教員が交流

「2015城西大学就職セミナー」が1月23日、東京・池袋のホテルで開かれ、約200社の幹部や採用担当者が参加しました。第1部では白幡晶副学長が「城西大学の歩みとこれから」と題して講演しました。

第2部の懇親会は、海外公務のため欠席した水田宗子理事長に代わって森本雅憲学長が「城西大学の学生は素直すぎるくらい素直。ぜひ多くの企業でお使いいただき、業績を高めていただきたい」とあいさつ。企業担当者と本学の教員が交流を深めました＝写真。



2014年度永年勤続表彰

2014.12.12

40年が9人 30年1人

2014年度の永年勤続表彰が昨年12月12日、清光会館で行われました＝写真。

40年が9人、30年が1人。表彰者を代表して水田記念図書館長で薬学部薬科学科の橋本フミ恵教授は「来年は創立50周年です。それぞれの立場で大学の理念である『学問による人間形成』を目標に全力を尽くしてまいります」と感謝の言葉を述べました。

橋本教授以外の方々はこちらの通り。

〈40年〉谷覺・薬学部薬学科教授▽林秀徳・薬学部薬学科教授▽白瀧義明・薬学部薬科学科教授▽津田整・薬学部医療栄養学科教授▽新津勝・薬学部薬学科教授▽田中寿夫・薬学部薬学科准教授▽伊藤久昭・薬学部薬学科講師▽館野かほる・短大事務室〈30年〉荻原政彦・薬学部薬学科教授



全国大学ビブリオバトル

2014.12.14

本学チャンプ鈴木さん 全国大会へ

昨年12月14日、京都大学で開催された「全国大学ビブリオバトル2014～京都決戦～」に鈴木賢人さん(経営学部3年)が出場しました=写真。鈴木さんは本学図書館で開催した地区予選会でチャンプに選ばれ、その後、紀伊國屋書店新宿南店において開催された関東地区決戦を勝ち抜き、京都決戦への出場権を獲得しました。

残念ながら最終の決勝戦には進めませんでしたが、予選会から読み込んだ「ミッキーマウスの憂鬱」を手に、予選での経験を生かした素晴らしい発表でした。



「社会人基礎力育成グランプリ2015」優秀賞 2014.12.7

経済学部の3人 全国大会出場 地元産小麦のカップ麺流通で

大学生の「社会的基礎力」の伸びを競う「社会人基礎力育成グランプリ2015」の関東地区予選大会が昨年12月7日、都内で開かれ、経済学部の末永ゼミの保坂悠航さん、宮前圭佑さん、宮崎洋介さんの3人(いずれも3年生)が優秀賞に輝き、2月26日に開かれる全国大会への出場を決めました。

3人(いずれも3年生)が優秀賞に輝き、2月26日に開かれる全国大会への出場を決めました。



関東地区予選で成果を発表する(左から)保坂さん、宮前さん、宮崎さん

2014年度奨学・奨励生授与式

2014.12.12

61人 女性リーダー目指し決意

2014年度の女性リーダー育成奨励生(水田宗子奨学金)などの授与式が昨年12月12日、17号館1階プレゼンテーションルームで開かれました。今年度授与されたのは61人。水田理事長は「これは、皆さんのこれからのために差し上げていると私たちは考えています。これを一つの励みとして精進・勉強し、社会貢献できる人物になってほしいという期待と願いがこもっています」と語りかけました。これに対し、学生を代表して女性リーダー育成奨励生を受けた薬学研究科博士課程1年の板谷友里奈さんは「学内のセミナ

3人は坂戸市の地域活性化を目標に地元の国産小麦「ハナマテン」で作った麺のカップラーメン1万個を企画、製造、販売するまでの道のりを発表しました。製麺会社の倒産や販売企業探しなど多くの困難を克服して販売までたどり着きました。保坂さんたちは「先生や周囲の大人の人から『無理なんじゃないか』と言われたが、あきらめなかったからできた。大人を信じちゃいけない」と述べて、会場の笑いを誘いました。

「学生と市長との日高みらいトーク」

2014.11.29

本学学生 街づくりを提案

将来の日高市について谷ヶ崎照雄市長と学生が語り合う「学生と市長との日高みらいトーク」が昨年11月29日、日高市役所で開かれました。地域連携協定を結んでいる近隣の4大学から10人の学生が参加。本学からは現代政策学部3年の近藤郁美さんと奥平香織さんが出席しました。

谷ヶ崎市長はあいさつで「若い人の意見を市政に反映させたいと集まってもらいました。若い皆さんに大いに期待しています」と述べました。飯能青年会議所の潮田真也理事長を司会に、観光やインフラ整備、居住環境や子育て支援、安心安全の街づくりなどをテーマに1時間半にわたり、意見交換が行われました。

近藤さんと奥平さんは昨年春にハンガリーに短期留学してフランスのバリにも立ち寄ったことがあり、近藤さんは、アートを使った街づくりや名産の栗を使った市民挙げてのイベントの創設を提案。奥平さんは、子どもから高齢者まで集える公園づくりを提案しました。



日高市長や他大学の学生と意見交換をした近藤さん(左)と奥平さん

ーや研究会に参加して教養を深め、多くの人と交流し、目指す女性リーダー像に近づけるよう努力したい。今後は女性リーダーとして成長し、後輩の育成に貢献することを誓います」と決意を述べました。

各制度の人数は以下の通り。

〈女性リーダー育成奨励生(水田宗子奨学金)〉=4人

〈水田奨学生第一種特待生 1年生〉=10人

〈水田奨学生第二種特待生 2年生以上〉=29人

〈水田三喜男記念奨学生〉=10人

〈キャリア形成奨学・奨励生(渡辺好章奨学生)〉=8人(蛭川篤記塾、女子ソフトボール部、寺子屋プロジェクト研究会の3クラブ含む)

ニュース

創立50周年記念講演会「山人と山姥」 2014.12.10

柄谷行人氏招き ホール満席

昨年12月10日、東京紀尾井町キャンパスのホールで、哲学者・評論家の柄谷行人氏による講演会「山人と山姥」が開かれました。今年の創立50周年を記念したもので、法人本部の多文化共生センターが主催し城西国際大学のジェンダー・女性学研究所が共催しました。

柄谷氏は世阿弥の『山姥』や馬場あき子氏の『鬼の研究』（ちく

ま文庫）などを引きながら、「山人は山地民や平地民とは違い、定住に関心がない。柳田国男によると、いわば天狗のような表徴としての存在。また、山姥も野の女や里の女と異なり、やはり山人であるということ」を水田さんの論文から学んだ。「山姥は性差への反発もない、ジェンダーを超えた存在」などと話されました＝写真。ホールは教職員や学生、一般の方々らでほぼ満席となり、柄谷氏の興味深い論考に熱心に耳を傾けていました。



お知らせ 薬学部企画・開発 化粧品お目見え

野バラの香り しっとり

JUブルガリアンローズウォータ
城西ローズクリーム

「三耀」のオンライン・ショップのグッズに新たに化粧水「JUブルガリアンローズウォータ」（税込み1500円）＝写真左＝とハンドクリーム「城西ローズクリーム」（同800円）＝写真右＝が仲間入りをしました。

いずれも薬学部が企画開発した商品です。ローズウォータはバラの香気にあふれた化粧水で、特に冬場の乾燥肌や季節の変わり目の敏感肌にも安全に使えるほ

か、入浴後のボディローションやヘアローション、衣類へのスプレー、部屋のフレグメントにも使用できます。

ローズクリームは野バラを使って素朴で懐かしく、なじみやすい香りをつけたといえます。三耀では「入学や卒業の記念に、同窓会や各種イベントの賞品やプレゼントにぜひお買い求めください」と呼びかけています。



シリーズ

浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創立者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいぬ歴史の懐かしさが感じ取れます。当時の人物や風俗などが、生き生き描かれている作品をシリーズで紹介しています。

『梅の枝を持つ美人図』 円山応挙

梅の枝を持ち、その香りを楽しむ女性が描かれている。紫の着物には山水模様が精密に描かれ、帯は亀甲文に鶴のおめでたい意匠で、鹿の子絞りの赤と帯の緑のコントラストが印象的だ。丸顔に切れ長の目、大きめの鼻におちよほ口という顔立ち、江戸時代中期以降、写実的な描写力を誇った上方の円山四條派の女性像に見られる様式で、本作品に

もその特徴が認められる。

円山応挙(1733～1795年)は、近現代まで続く円山派の祖。丹波国(京都府)に生まれ、画を狩野派の石田幽汀に学ぶ。中国の古典や明清画を学ぶ一方、写生を重視して、写生と装飾性を融合させた清らかな画風を確立し、京都画壇に大きな影響を与えた。

絹本着色(124.1cm×28.8cm)／江戸時代(18世紀後半)



先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は群馬県の前橋市議会議員の町田徳之助さん(56)を前橋市に訪ねました。



地方の政治にも 興味を持って

前橋市議会議員 町田 徳之助さん (1980年度経済学部卒)

——学生時代の思い出をお聞かせください。

「私は部活動等はやってなくて、坂戸の南口から5分くらいのところに下宿していたんです。まだ空き地ばかりだったところで、下宿ではよく本を読みました。小説からありとあらゆるジャンルまで。一番よく読んだのは、司馬遼太郎さんの小説で片端から読みました。中でも『坂上の雲』『花神』が好きでしたね。あと思い出すのは、うちのクラスはまとまりが良く、余裕が出てきた3、4年生の時は、休講になるとソフトボールをやったり、夏は房総の海に行ったり、冬は新潟の妙高にスキーに行ったりと本当に仲が良かった。メンバーは18人ほどでしたが、特に気の合った山形の親友とは今でも視察の際などに会ったりしています。友人は本当に財産です」

——地方政治の道に入ったきっかけは何ですか。

「父親が県議員をやっている状態で、学生時代から選挙などの手伝いをしていました。卒業後はそのまま事務所の責任者となり、秘書や運転手をしました。30代後半になり、地元の市会議員さんが引退することになり、私が引き継ぐことで調整をしていたところ、父親が急死したんです。当初は市議選に出る予定が弔い選挙で県議選に出ることになり、楽勝ムードで組織が緩んで250票差で落選。4年後を目指すよりも、お世話になった地元で恩返しする気持ちが強く、3カ月後にあった市議選に出ました」

——現在5期目。この間、ご苦労もあったのでは。

「私自身は(苦労は)感じてないですよ。いろんな方に力添えをいただいて、人に恵まれましたね。最初の選挙で挫折を味わいましたが、それがかえって私を磨くものになったんだと思います」

——座右の銘を教えてください。

「何年か前のNHKの大河ドラマのタイトルにもなった『天地人』を、最近よく感じるようになりました。上杉謙信公がお使いになったとのことですが、もともとは孟子の教えとのこと。『天の時、地の利、人の和』の三つが揃わないと事はなせない。議員生活を送り、そして議長職にある今、特に『人の和』が大事だとつくづく思います」

——城西大生にメッセージをお願いします。

「月並みですが、若い学生の皆さんにもっと政治に興味を持ってもらいたいですね。国政だけでなく、地方の県政や市政にも。成人が20歳から18歳になることが検討されています。そうなると選挙権も18歳からになる。そうなれば大学生は立派な大人です。また、どうも地方議員は中高年のイメージが強い。地方議会にもいっぱい若い人が出てきてほしいですね」

■前橋市と前橋市議会

群馬県の県庁所在地・前橋市は人口約34万人。前橋市議会(定員38人)は、人口30万以上の中核市としてはタブレット端末の導入が最も進み、資料のペーパーレス化が図られているという。また、年4回の本会議で質問する議員の述べ人数が100人以上で中核市の中では全国トップクラス。放映中のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」に登場する主人公の夫・楯取素彦(かとりもとひこ)が維新後、群馬県最初の県令・県知事を務めたことを広くアピールしようと、前橋市などの協議会は「ぐんま『花燃ゆ』プロジェクト」を展開している。

シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

吹奏楽部

箱根駅伝 演奏でもり立て

今年の箱根駅伝で見事シード権を勝ち取った城西大学駅伝部。その駅伝部を演奏でもり立てたのが吹奏楽部だ＝写真。現部員は28人。駅伝の演奏の時は、チアリーダーが前で踊っているため、テンポがずれると迷惑がかかると緊張していたという。また気温が低いため指が動かさずらく、楽器が凍ってしまった部員もいたそうだ。

運動部の応援や式典の演奏以外にも夏にはコンクール、冬には演奏会にも出ている。幼稚園や越生祭りなどでも演奏をしている。普



段は基礎から練習し、より良い演奏ができるように励んでいる。そして演奏会に向け団結力を高めているという。

楽器の中ではトランペットとサクソが人気だ。定期演奏会をした後の「ありがとう」の一言がうれしく、やりがいを感じるという。部長の島村広也さん(理学部2年)は「初心者の方でも気

軽に立ち寄ってほしい。特にパーカッションが少ないので、興味のある方は見学してほしい」と話している。

(取材:広報委員会2年・郡司拓実)

地域のイベントステージに立つ

鈴木さん(経営)「気持ちで歌う」

「歌うのが好きだから、緊張せずに楽しんで歌うことができた」。鈴木花菜さん(経営学部1年)＝写真＝は、坂戸のお祭り際のステージをこう振り返った。

鈴木さんが、音楽に興味を持ったのは子どもの頃。地域のステージなどで歌や踊りを披露する祖母を見て、自分も家族の前で歌ったり、踊ったりしていたという。家族以外の前で歌い始めたのは中学3年生の学園祭だった。その後は高校の学園祭、そして今は地域のイベントなどで歌を披露している。

鈴木さんが歌うのは主にJ-POP。鈴木さんは作詞作曲もし、自分のやり方でボイストレーニングもしている。トレーニング

をするときに心がけていることは「うまく歌うのではなく、気持ちで歌う」こと。その語り口からは、音楽にかける思いがすごく伝わってきた。

「歌が好きで、自分の歌を多くの人に届けたい。将来は音楽で活動していくのが夢」と力強く話してくれた。近い将来、鈴木さんが城西から羽ばたいて活躍するのを期待したい。

(取材:広報委員会3年・戸塚優樹、1年・齊藤宙生)



卒業アルバム編集委員会 城西生の笑顔を形に

「城西生の笑顔を形に残すのが私たちの仕事です」。そう語るのは卒業アルバム編集委員会委員長の渡辺浩太さん（経済学部3年）だ。

卒業アルバム編集委員会＝写真＝は男性40人、女性20人の計60人で活動している。仕事内容は撮影局、編集局、企画局、財務局、広報局に分かれており、撮影局と編集局がメインとなっている。

撮影局では駅伝、ゼミ、高麗祭、点灯式など大学のイベントで撮影している。ゼミの集合写真などは昼休みに行くことがほとんどなので、自分の時間が潰れてしまうなど苦労も多い。特に11月から12月はイベントが目白押しで非常に忙しいそうだ。また、1年生はほとんどが、本格的なカメラを使用するのが初めてのため、先輩たちから使用方法の引き継ぎをしながらの撮影になる。撮影で大切にしているのは楽しんでいる写真、笑



顔の写真を撮ることだそうだ。撮影局が撮影したデータをパソコンでレイアウトし、株式会社タニファクトさんと協力して城西大学の卒業アルバムに仕上げている。

「仕事は大変だが、自分たちが作った『卒業アルバム』が形になった時にやりがいを感じる」。渡辺さんは、笑顔で部員たちの気持ちを代弁してくれた。

（取材：広報委員会3年・丹波瞭、戸澤敦子）

BRADY'S CAFÉ 愛情メニュー 全て手作り

扉を開けると、そこにはキャンパスの景色とほろ苦いコーヒーの香りが広がっていた。「BRADY'S CAFÉ」は学生のみならず、職員や先生方など多くの人々がほっと一息つきに訪れる。ランチタイムにはいつも満席状態だ。



人気の理由は、コーヒーやソフトドリンクがリーズナブルな価格で提供されていることだけではない。もう一つ大きな理由がある。それは、お弁当や日替わりパスタ、サンドウィッチなどカフェで出されている全てのメニューが厨房で手作りされているということだ。なかでも、季節野菜を使った日替わりパスタはBRADY'S CAFÉの一押しメニューだ。

これらの料理を11時半からのランチタイムに提供するため、仕込みは朝9時から行っている。決して広いとはいえない厨房だが、スタッフの方は美味しい料理を提供するための工夫を怠らない。今年の箱根駅伝でのシード権獲得を受けたお疲れさまいイベントやメディアルームでのワゴン販売などから利用者への愛情が垣間見える。

「料理を作って、食べてもらうことが好き」と話すスタッフの方たち＝写真。きれいに食べ尽くされたお皿を見るたびに、大きなやりがいを感じるそうだ。静かに過ごしたいなら、おすすめの間はランチタイム以外。月曜日は比較的空いているという。あなたも親しみある接客と工夫を凝らしたメニューで、心もお腹も満たされに行ってみてはどうだろうか。

（取材：広報委員会3年・中原雅人、貝沼大輔、1年・中村優季）

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています
jukoho1@gmail.com

図書館だより

第16回図書館総合展ポスターセッションに出展

昨年11月5～7日にパシフィコ横浜で開催された第16回図書館総合展ポスターセッションに参加しました。テーマは「Active Library～図書館ができることいろいろやってみよう～」。2008年度から開始した開館時間の延長や日曜開館、教員や他部署との連携による取り組み、学生が積極的に参加できるビブリオバトルや学生選書、講演会、就活上

映会の開催など、まさに図書館が“Active”に活動してきたことをまとめて紹介しました。これらの成果として、入館者数が2008年度から2013年度までに45%増加したこと、ガイダンス実施数が2005年度から2013年度までに4倍に増え、受講者の満足度も99%に達していることなどを紹介しました。



就職課との連携で就活支援

11月12～14日、図書館3階グループ学習室で学生アドバイザー企画・就職課共催就活応援プロジェクト「図書館から始める就活」を開催し、37人が参加しました。現在就活中の学生アドバイザーが就職活動に役立つ図書館資料や業界・企業情報が得られ



るデータベースを紹介し、さらに就職課職員からは就活準備に必要なアドバイスと就職課でのサポート内容を紹介しました。

学生アドバイザーによる図書を紹介

12月16日には、図書館・就職課共催講習会「日経テレコンで、はじめよう!就職活動」を開催し、42人が参加しました。「日経テレコン」で検索・閲覧できる新聞記事や業界・企業に関する情報の収集方法を実際にパソコンを使い体験しました。また10月から12月には就職課共催「就活DVD上映会」を開催し延べ249人が参加しました。

新企画「ライブラリーラウンジ」を開催

ラウンジにいるようなリラックスした雰囲気の中で楽しめる新企画「ライブラリーラウンジ」がスタートしました。12月8日は「人生の先輩と本について語ろう」を開催し、講師の地域アドバイザー・丹羽秀二郎氏から、学生時代の本との出会いやご自身の語学習得法などをお聞きし、参加した8人の学生が人生の先輩から学びました。12月22日には理学部数

学科の小木曾岳義教授による「ゲームで数学の楽しさを解き明かしてみよう!!」を学生アドバイザーが主催し、25人の参加者が日常生活に隠れている数学的思考法をゲームを通して体験しました。今後も学部・学年を超えた交流ができる場を企画していきます。

- ④熱く語る地域アドバイザー丹羽秀二郎氏
- ⑤小木曾教授のお話に引き込まれる参加者



悼む

法人本部顧問 村井隆先生告別式 しめやかに

昨年11月26日に86歳でお亡くなりになった法人本部顧問、村井隆先生の告別式が同12月4日、東京都品川区の桐ヶ谷斎場でしめやかに営まれました。

村井先生は日中協会常任顧問などを歴任、大連市や珠海市の名誉市民となるなど中国の専門家であり、日中の橋渡し役を務めてこられました。一方で、俳人協会の事務局長



を務めるなど「俳人・村井隆」としても活躍されてきました。

水田宗子理事長は弔辞で「父水田三喜男の時代から、母も含めて約60年にもわたる大変長い時代をご一緒した先生には、語り尽くせないほどの思い出とご恩がございます。先生は私を中国へ導いてくださった方であり、城西大学と中国の大学、そして若者たちを結びつけてくださった恩人です」と村井先生の遺影に語りかけました。最後に「先生の志をくんで次代の日中の懸け橋となる人材を両国が手を携えて育成してまいりたい」と結びました。

大連理工大学・郭東明学長による弔辞の朗読の後、両大学の教職員や中国からの留学生ら約300人が献花して村井顧問の冥福を祈りました。

坂戸市

市全体で食育推進運動

坂戸市では、市全体で食育を進めるため、公募市民で構成する市民会議や食の専門家や市民ボランティアで構成する食育推進協議会を中心に、平成20年度に坂戸市食育推進計画を策定しました。平成25年度には第二次坂戸市食育推進計画を策定し、さまざまな実践活動に取り組んでいます。

女子栄養大学の研究を活かし、認知症や脳梗塞予防に効果があるといわれるビタミンB群の一種である「葉酸」を1日400 μ g摂取する運動を進め、できるだけ野菜などの自然食品から多く摂取するよう呼びかけています。葉酸はブロッコリーやほうれん草などの緑色野菜、焼き海苔や緑茶、枝豆、グリーンアスパラ、いちご、えのきたけなどに含まれています。自然食品のみで1日400 μ gの葉酸を摂取することが難しい場合



子どもたちによる調理実習

の不足分を補うため、葉酸を添加した食品開発を民間企業と合同で進め、これまでにパン、ドレッシング、うどん、たまご、かりんとうの開発に取り組みました。

また、城西大学、女子栄養大学、明海大学の教員が所属する委員会の意見を聴き、健康を意識したメニューや食品を提供するお店を「健康づくり応援店」として認定し、健康メニューを提供していただいております。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

東武線沿線情報

第30回 外秩父七峰縦走ハイキング大会を実施します

東武鉄道では、年間を通してハイキングイベントを実施しています。東武東上線の実施するハイキングの中でも、毎年8,000名以上の応募がある非常に人気の大会が「外秩父七峰縦走ハイキング大会」です=写真。大会といっても、競争ではなく脚だめの大会です。今年は、30回の記念大会で平成27年4月19日(日)に実施いたします。1日で完歩を目指す方や2年にわたって完歩を目指すなど希望に応じてご参加いただけます。2月6日(金)から3月13日(金)までを応募期間としており、ご参加希望の方はぜひ早めにご応募ください。

ハイキングというとまだまだ、中高年の方が参加するイベントだと思われ方もいますが、最近では学生やご家族での参加など多くの方が参加しています。自然豊かな東上線をぜひ知っていただき、完歩したときの爽快な気分を味わいに歩いてみませんか。

詳しくは、駅置きの応募用紙または東武鉄道ホームページをご覧ください。



毛呂山町

春の流鏝馬 和やかに

3月8日 出雲伊波比神社

出雲伊波比神社(毛呂山町岩井西5-17-1)の流鏝馬は、流派による武芸ではな



く、地域に伝えられてきた祭りとしての流鏝馬で、毎年、春と秋の2回行われています。11月3日(祝)に行われる秋の流鏝馬は15歳前後の少年が乗り子となり、祭りの日まで禊を繰り返し、流鏝馬にのぞみます。3月の第2日曜日に行われる春の流鏝馬は7歳未満の幼な子が乗り子となります。どちらも祭礼区から選ばれた少年が矢を放ち、地域が安らかであるよう願います。

今春も出雲伊波比神社で、春の流鏝馬が奉納されます。春の流鏝馬では、白・紫・赤の三色で飾り立てられた花笠と陣羽織で盛装したいとけない乗り子が、馬の背に揺られ、口取りに引かれ神社を訪れます=写真。そして「願的」という静止している馬上からの矢を射る行事のみが行われます。また、幼い乗り子の頭上には、常に竹に掛けられた小袖が随行します。これは「オカイドリ」と呼ばれ、母親の象徴とされています。春の流鏝馬は、穏やかな春の日差しのなか、和やかに行われる流鏝馬です。

今年の春の流鏝馬は3月8日(日)に行われます。「願的」の儀式が行われるのは、およそ午後2時ごろです。皆さんで和やかな流鏝馬を見に来ませんか。

編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
<http://www.josai.ac.jp>

2015年2月発行

